

[dōnk]

D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL. 059-226-2766
FAX. 059-229-0967

N° 53 juillet 2000 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

7/16 総会と記念行事を鈴鹿市で レセプションは90人の参加で賑わう

三重日仏教会の2000年度総会と関連行事は、7月16日鈴鹿市江島町の新しいレストラン「ドミニク・ドゥーセの店」(パン・菓子店および美容室<D's>も併設)で開催されました。津市以外での総会は初めてです。総会には来賓として出席された鈴鹿市の加藤栄市長もあいさつされ、同市とフランス・ルマン市との10年にわたる交流の状況を説明、今後の交流に三重日仏協会の協力を要請されました。

I. Nホームページ開設や各地域での活動重視

総会議事では、先般実施した会員アンケートの内容も踏まえて、これまでどうしても津市中心に偏りがちだった本会の活動をなんとか北勢や南勢方面でも活発化すること、会内外の情報も時代に即応してインターネットに三重日仏協会独自のホームページを設けることなどを盛り込んだ2000年度活動方針その他が議決されました。

恒例の記念講演では、本会会員で鈴鹿市を根拠地に今や全国ブランドとなった「ドミニク・ドゥーセの店」社長・Dominique DOUCETさんがそのご苦労話を中心に話され、満員の聴衆に感銘を与えました(3ページ関連記事)。

続いて行われた二日おくれの「パリ祭」レセプションには過去最高の約90人が参加、フランス人のゲストを囲み、ベルトロン・シェフ以下による料理と葡萄酒、「フランス歴史クイズ」などで大きな盛り上がりを見せました。また開宴に先立ち、矢谷会長が今回初めてフランス語であいさつされ、フランス人ゲストから「十分理解できました」と太鼓判を押されるという一幕もありました。



乾杯! 「パリ祭」レセプション

三重日仏協会 活動に関する会員アンケート

ご協力ありがとうございました

会員総数の約4割に当たる53名の皆様より回答をいただきました。

以下はそのまとめであります。皆様の貴重なご意見を今後の協会の運営にどんどん取り入れていきたいと思っております。

事務局長 滝沢 秀行

アンケートの結果とまとめ 回答総数:53名

1. 性別・年代

- ① 女性 25 ② 男性 28
〈年代〉 ① 30代 9 ② 40代 11 ③ 50代 17 ④ 60代以上 18

2. 会員になってからの年数

- ① 3年未満 9 ② 3~5年 11 ③ 5~10年 17 ④ 10年以上 16

3. フランスに関して興味ある分野 (重複回答)

- ① 文学歴史 27 ② 音楽 19 ③ 美術 19 ④ 語学 28 ⑤ 食文化 31
⑥ ファッション 7 ⑦ 旅行 34 ⑧ スポーツ 4 ⑨ 映画 12 ⑩ 事業 1
⑪ その他 (交流関係、科学技術、医学)

4. 協会運営に対する満足度

- ① 満足 16 ② まあまあだ 24 ③ やや不満 1 ④ 不満足 1
⑤ その他 (よくわからない) 5 ⑥ 無回答 4

4-2 不満理由

- * 美術展、映画会の開催を
- * 会の内容がよくわからない

5. これまでに印象に残った行事 (重複回答)

- ① パリ祭パーティー・講演会 21 ② パリ祭パーティー・シャンソンコンサート 18
③ フランス語入門講座 14 ④ フランス年記念事業美術展 15
⑤ フランス年記念事業コンサート 9 ⑥ 「ラパンアジル」コンサート 9
⑦ 「ラヴェル」コンサート 12

6. 来県フランス人のホームステイ受入れについて

- ① 興味ある 29 ② 興味なし 13 ③ 無回答 11

7. 毎月の定例会について

- ① 知っている 20 ② 知らない 24 ③ 無回答 9

7-2

- ① 参加してみたい 6 ② 詳しく知りたい 13 ③ 無回答 34

8. 協会への要望

- * 諸行事が津市中心が多く感じられる
- * 活動を地区別に、市町村と日仏協会と連絡を取り合うと活動が広がるのでは
- * 真面目でかたい、もっとフランスの楽しさを伝えられる存在であってほしい
- * フランスの音楽家を招いて演奏会の企画を
- * 日本在住のフランス人と交流をしたい
- * ペンパルの紹介をしてほしい
- * フランス料理食事を催して
- * 協会の情報がDONCのみで、もう少し活動の情報を知りたい
- * フランス旅行 (特に北仏、ブルゴーニュ) の企画があれば参加したい
- * CINEMAの上映、仏料理会の催しが欲しい



D.D.ドミニク・ドーセ 語録

7/16 総会記念講演より

ドミニクさんの記念講演は、彼がレギュラー出演中のFM三重『月曜オジラ』でコンビを組んでいる同局アナウンサー林知恵子さんとの絶妙な対談の形でおこなわれました。ここで2時間近い内容をお知らせすることはできませんが、その発言を断片的に紹介することでお話の中身を想像してください。

§ ノルマンディーはドーヴィルとリジューの間にある人口約300人の村で生まれました。子どものころ三日に一回、村へパン屋がやって来るのでパンやお菓子を予約して買っていたものだ。母と一緒によくケーキを作った。ケーキはいまでも大好き。14才の頃からパン、ケーキの職人をめざすようになった。18でパリに出てコンコルド・ラファイエットなどで修業したのがこの仕事のはじめ。ロビュションがそこのシェフだった。

§ 20代後半、ホンダから日本（鈴鹿サーキット）へ来ないかとの誘い。日本には何の興味もなかったが、カーレースが好きなのでちょっと来てみたら「5年いてくれ」ということになってしまった。最初言葉はまったく分からず刑務所のような生活で、早く日が経つことだけを願っていた。でも仕事は一生懸命やった。もし「仕事か？奥さんか？」と聞かれたら私は常に「仕事」と答える。いまは辞めたがホンダには一生義理がある。（その後「人生の事故」があって日本に腰をすえることとなり、独立店をもって業績はぐんぐん伸びた）

§ この新しい店を開くことにあたって、契約業者の倒産という思わぬアクシデントがあり資金的に大打撃を受けた。「ドミニクさんが倒産した」という噂も流れた。でもこのチャンス逃して消極的になってはこれまでの努力がダメになると思い、苦勞して奔走しオープンにこぎつけた。おかげでそんななかで「足をひっぱる」とか「足もとをみられる」などの日本語も覚えられた。

§ フランスパン・菓子・料理の立派な店をどんどん展開したい。でも味が落ちていけない。また私の方針を理解して協力してくれるスタッフもたくさん必要だ。この辺が大変難しく迷いも多い。

§ (フランスパンのお店になぜ餡パンを置くか？との質問に)バゲットなどフランス本来のパンを好むお客もいるが、例えばこの本店でもバゲットは日に20本ぐらい売れるだけ。日本人の好きな「おやつパン」を売らなければ全然商売は成り立たない。餡パンもおもしろいと思う。将来フランスに店を出したら逆に餡パンを積極的に売りたいと思っているぐらい。

§ 鈴鹿は住みやすく私の第二の故郷である。2002年のワールドカップの時、世界最強のフランスチームがこの鈴鹿をキャンプ地に選んでくれたらすばらしい。地元も望んでいるので、沖縄サミットの際、名古屋に立ち寄るシラク大統領に会ってこのことを働きかけたい。

四日市でもフランス語講座

リヨン大学研修生を講師に好評 (5月~7月)

三重日仏協会主催によるフランス語入門講座は、例年津市のみで開催されてきましたが、今年は四日市でも開催の機運が高まり、折りから近鉄百貨店での企業研修のため四日市を訪れていたリヨン大学の大学院生カラ、リュフィエ両嬢がその講師を快く引き受けてくれたため、「入門」「初級」の二つのコースを同時に実施することができました。講座は5月16日から毎火曜日夜10回、同市の「地場産センター」で両コース計約30名の生徒が受講して開かれましたが、受講者からは「実用的な会話が覚えられて、パリのカフェでもすぐ役立ちそう」「どんどん質問されるのでドキドキしたが毎回楽しかった」などと、好評のうちに7月18日終了しました。

なお津市、四日市市とも、講座終了後さらにフランス語の勉強を続けたいという受講者が多く、三重日仏協会では既存のフランス人による会話教室を紹介するほか、今後主婦を中心とした昼間のフランス語教室の新設なども独自に検討しております。

Actualités

四日市・大橋さんが小説を出版

「仏領印度支那にさ迷う」

本会会員で四日市市堀木在住の大橋与成(トモシゲ)さんは、このほど東京鳥影社からライフワークともいべき自伝的小説『仏領印度支那にさ迷う』を出版されました。青春時代をきびしい戦時中に過ごしたフランス語学生の子三太郎は、不条理な徴兵を避けて当時フランスの植民地であったベトナムへの留学の道を選びましたが、そこでくりひろげられた数奇な体験がつつられています。

定価1,500円。興味のある方は大橋さん(☎0593-57-3511)へ。津市の別所書店、四日市の白楊書店にも置かれています。

7/14~17 日仏アートマルシェ2000 (大阪) 三重から月輪さんが出品

日本とフランスの若手造形芸術家がまったく自由な立場で一堂に会し、それぞれの賃貸ブースで作品を販売するという画期的な催しが7月大阪の国際会議場「グランキューブ大阪」で開かれ約1万人の観客を動員しました。このマルシェは同実行委員会主催・フランス総領事館経済部の協力という形で開かれ、120のブースにあらゆるジャンルの約140人の日仏芸術家が出展しましたが、三重県からは一昨年秋の三重日仏協会主催のプロバンス展にも参加した月輪清さん(久居市・県立津高校教諭)がヨーロッパの風景画を中心に出品され、なかなか好評のようでした。マルシェ関係者は、今回の反省の上に立って近い将来に再度計画したいと言っています。

事務局より

- 総会に欠席された方には、『どんく』53号とともに当日の議案書をお送りいたします。
- 2000年度会費未納の方は同封の用紙で3,000円をお振り込みください。1999年度以前の未納も若干あるようですが、とりあえず2000年度の納入をお願いします。